

# 牧野井のぼん

Aさん（牧野本町在住）

△その1▽

1989. 2. 1号

狐もおった

あんたんとこは？ 高野道？ 洞ヶ峠の近くやな。昔は雑木林が多くて、兎がおつてな、「牧野の兎狩り」って、京阪が宣伝しよったんや。朝、網をしかけとくんや。京阪が小学生を募集して、京都大阪から連れてくる。それはタネがあるんや。朝早よう起きてパッと兎を放しときよる。それでも、ほんまに兎狩りができるようなとこやったんや。

初めてわしがここに来たときは、家の中にマムシがおつたし、昼の日にイタチが歩いとるしね、穂谷川に狐がおつた。夜になると、ケーンという声が家まで聞こえてきよる。家の外へ出たら、生駒も愛宕も比叡山もぜんぶ見えたですよ。

小学校

招提は昔から招提という村で、お寺を中心にまわりを堀で

囲んだ、一つの寺内町というか、よそから攻撃された時に防ぐために、まわりは溝や川でずっと囲われていた。その地域の中に固まってるから、中の道は狭くてややこしくて、消防車も入らへん。散歩しとっても、ちょっと行ったらすぐ行き止まりや。

招提以外は、船橋川から天野川までぜんぶ牧野村で、その広い牧野村に、小学校は一つしかなかった。今の殿一（殿山第一）小学校で、その頃は牧野村の牧野小学校やったわけや。甲斐田は甲斐田村で、片鉾も牧野村やなかった。

歩くのは平気

上島、下島あたりから学校までぜんぶ歩いた。みんな草履はいて、かすりの着物着て、風呂敷に本やらノート包んできりきりっと身体に巻いてた。上島から牧野小学校（今の御殿山美術センターの東）に通って、昼飯食いに家に帰ってくるんですよ。そんなこと、今の子供にできますか？ 皆ターツと走ってましたよ。だから昔の人は皆足が強い。

台風で学校がこけた

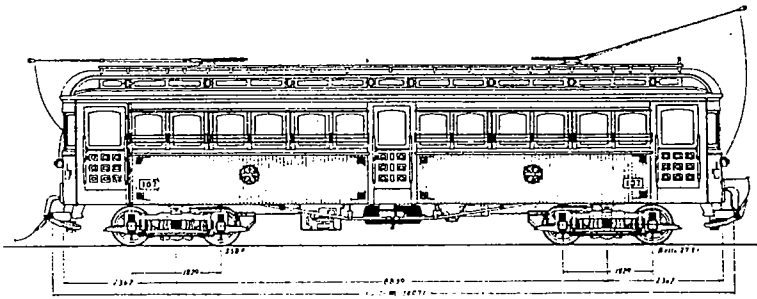
昭和九年の室戸台風で、小学校がこけたですよ。その後で牧野村と招提村が合併して、殿山町ちゅう名前がついたです。枚方と合併するまではそういう名前やったです。それで、牧

野本学校を建て直して殿山第一小学校にし、やはり台風で傷んだ招提小学校を、場所を移して建て直して殿山第二小学校にしたんや。上島とか養父の人は殿二小学校へ通って、三粟の人は殿一へ通った。それまでは、一年生から六年生までぜんぶ一列になって、雨の日は傘をさして六年生が先頭に立って、トボトボと御殿山まで通ったんですよ。その時分は、電車の沿線はぜんぶ田んぼやった。

#### 電車は一輛だけ

ここの住宅ができて京阪が売り出したんが、昭和六年です。私が来たのが七年。そのときはもう歯科医専（今の大阪歯科大）も女子医専（今の関西医大）もありました。

私が越してきたとき、牧野の駅は、電車一台がとまるだけだった。今大阪に残ってる南海の平野線は、少し似てるけど、低床式と言って地面から乗れる。そのときの京阪の電車は、高床



式で、地面からは乗れない。駅のプラットホームも最初はなくて、電車の入り口だけ木の箱みたいな物を積んで、そこへパットとめてた。飛行機のタラップみたいなんですよ。いかに客が少ないか……ですよね。昭和三、四年に歯科医専、女子医専がきてから、ちょっと駅がマシになった。

朝は、それでも十二分ごとに一台きてましたね。けっこう多いです。電気信号機がついたのも大正三年か四年で、京阪がいちばん早いですよ。

#### 駅前もさみしかった

当時はさみしい駅でしたな。二輛連結は正月ぐらいしかとまらない。無人駅で、車掌が切符売って、降りしなに切符集めたり、市電といっしょですよ。

夜は八時すんだらほとんど降りる人がおらんかった。女の人が一人で出たとしたら、日が暮れたら、招提の人でも家の者が駅に迎えに来て、提灯つけて歩いてた。そういう時代でした。

今の駅にくる広い道路、あれは両側がガバガバの藪で、今の京阪ストアは池でね、食用蛙が鳴いとった。寂しかった。京阪の駅を出たら右っかわにパチンコ屋がある。あの隣まで三、四軒小さい家があって、それからずーっと家なしで、今の広い道も、その時分から広がったけれども、公園の入り口

がだらだらの登りの坂で、まん中に松の木が生えとった。だから、トラックが通られへん。左側に飛行機の形の遊具の置いてある公園、あそこは山でした。ぜんぶ松の木が生えとった。反対側はお宮さんの境内だったんやけど、梅の木がちよちよと生えとるぐらいで何も無い。私らでも一人で歩いたら寂しいとこでしたよ。

カフェーがあった

岡薬局の前に、今ほかほか弁当売ってるとこあるでしょう。あそこにね、カフェーがあった。何であんなとこにあったかわからんけどね、ちよと酌をして客に酒を飲ませる。「二本松」という名前だね、あそこに松の木が二本あったんですよ。それからこの住宅地（牧野本町）まで、ずーと家一軒もなしやった。今「並木」という写真屋があるでしょ、それに「ミシユラン」というレストラン。それから一軒おいて隣に小寺さん、角に「大忠」という酒屋、その東側に竹島という家があつてうどん屋をやつた。そこから招提まで家一軒もなかった。

田下駄をはいて田植え

九頭神いづかみという地名、今はなくなつたけど、食堂してる「ぶくろう」から向こう、百姓家だけで固めた古い部落やつた。

「サンコー」というスーパーがあるでしょ、あの辺はぜんぶ泥田で腰までつかるから、田下駄という大きな下駄をはいて田植えた。それをはかんと沈みよる。

「河内へよう行くなあ」

いちばん整然としてるのは牧野本町で、これは京阪が開発して売り出した。昭和十二年頃、こんなパンフつくって売り出した。ほら、この家、敷地が五十六坪で値段が四百二十八円四十銭、建物が十七坪ちよとで千七百七十一円六十銭、土地より家の方が高かった。土地が売れへんかったから、しようがないから京阪が家を建てて即売会をやつたわけです。

この家に住んで、お正月にちよと買物をしようとしたら、枚方ではだめなんですよ。私は伏見になじみがあつたら、そんな時は伏見桃山の大手筋へ行つてました。京都から大阪向いて宿替える言うたら、「河内みたいないなとこ、お前よう行く気になつたなあ」言われました。「河内みたいないなとこ」でっせ。また、この辺、言葉が悪かつた。「よっ」とか行つたということを「行つこつた」、「夜」を「夜さり」、着物を着替えることを「しょうぞくする」……、異郷の土地へ来たみたいでした。

のんびりした

長尾から通勤する人は、片町線（現学研都市線）の汽車があるけど時間がかかるし、間隔が長いから、長尾の人は皆自転車や牧野に来て自転車を預けてた。今みたいに駅前放置自転車はない。自転車は高価なもんやから、自転車預り所があって、月何ぼ（二十銭か三十銭）で預けた。

京阪がストの時は長尾経由で国鉄に乗って大阪の勤務先に行ったこともあるけれども、招提まで家がなくてぜんぶ田んぼで、今の国道一号線はなかった。登り道になって、長尾の峠越えるとき、ウグイスが鳴いてね、ええとこやったなあ。

魚もよおけおった

穂谷川の流に段がついてる。 ”どんど” 言うて、あれは昔からありました。兄弟でそこへ魚とりに行った。投網いうても、流れが狭くてチヨロチヨロやから、三人で投網張って、そっとたぐっていくわけです。モロコとハス、それに鮎もよくとれて、ブリキのバケツの中に、五十匹ぐらいじきにとれた。その下のところに鎮守川という小さな川があって、そこにも鮎でも何でもよおけおった。「今晚粕汁かき汁しよか」「よっしゃ」言うて、サンコーのあたりちよっと走ったら、芹のええの何ぼでもとれた。

追いはぎが出た

今の京都銀行からちよっと行つたところ、駅から公園の方になる坂の途中に、古い家が一軒だけ建って、前に舟の板で作つたような看板（「アサヒビール」と出ている）がある。あれは料理屋やねん。結婚式があつたらお膳をしてもうてたですよ。

私が支那から一時帰省したことがありました。昭和十七年やから、まだ太平洋戦争が始まったばかりで、まだ海は安全で制海権は日本にあつたんやけど、敵の潜水艦にやられたらいかんから、船に乗ったらライフ・ジャケットをつけさせられた。横にニョキッと日本の潜水艦が浮きよつたこともあるわ。神戸から青島チンギョウまで、二晩泊まったねえ、船内に。

そんな時分に、京都銀行の前の、今生命保険会社（日本生命）のあるとこねえ、あそこに炭焼きの窯かまがあつた。いや、炭焼きやない、瓦や。まあ、この辺はえらいとこでした。歯科大の前は昼でも暗かった。消防署の隣に小さいお堂がありますわ。あこに追いはぎが出た。禪の研究や言うて、北欧の人やつたかなあ、英国人やアメリカ人やフランス人やないんや。デンマークかスエーデンか、その辺の女の人や。下宿してて、夜八幡の円福寺から帰ってきて、ハンドバッグとられた。そんなこともありました。

タクシーは一台

牧野で初めてのタクシーは、「魚熊」やったかな。駐車場が、今の島田の本屋のはすかいに喫茶店あるけど、あそこがガレージやった。タクシー一台だけ。そのうちにバスができた。十人ほど乗れる、緑色に塗った箱みたいなバスやった。一時間に一回、牧野駅から招提の入口まで往復してた。「高い」言うて誰も乗らん。皆、歩きよった。それでやっていかれへんで、その権利を京阪バスが買い取った。そやけど、実際にバスが走り始めたのは、終戦後ずいぶんたってからですよ。道の舗装なんか、つい近年ですよ。僕ら靴が傷んでしゅうがなかった。あれよあれよという間に、変わりました。

(続く)

牧野井のぼなし

Aさん (牧野本町在住)

△その2▽

1989. 3. 1号

### 室戸台風

室戸台風(昭和九年)のとき、淀川の川筋から風が吹きつけて、家の縁の下の穴から入った風で、畳が浮くんや。ガラス障子なんかしななってしもて、手で押さえましたんや。ガラガラ割るか。割って風通さんともたんわ」と言うたりして、瓦なんかパラパラララと紙のように飛んでく。



昭和10年 穂谷川の氾濫

近所の二階に下宿してた学生の部屋の雨戸が破れて、蚊帳が、関西医大に大きな楠の大木がある、あそこにかかっていた。蚊帳やら背広やら。ふすまも皆飛んでしまった。昔は家がないから、よけい風が強い。凄かったでえ。台風のは怖いのには身にしみてる。昔は台風のこと、"台風"と言わんで、"大風"とか、"颶風"と言った。

### 穂谷川が大氾濫

昭和十年に穂谷川の堤防が切れたことがある。穂谷川は牧野駅の手前ところでぐっと湾曲している。桂川、木津川が増水し、淀川が増水すると、穂谷川を水が逆流してぶつかると、その時も西の方へ堤防を破って溢れだした水が回り一面を覆って、変電所(牧野駅の少し南の、旧国道西側)の回りも、ずっと砂で埋まってしまった。線路の道床がザーッと流れた。あのときは電車も何日間か止まりました。ほんとに大事やった。

そやそや、その時は夜中に早鐘が鳴ったというが、私には聞こえなかった。朝駅に行くと、淀川の堤防まで一望の水。ぜんぶ水に浸った。水の力がいかに恐ろしいか……。砂を浚って田や畑をつくり直さなあかんかった。

ふだんは水の少ない川だが、大水は恐ろしい。日頃から堤防は大切にせないかん。この頃牧野に来た人はこの氾濫を知

らんから、所によって堤防を自分の庭と心得て、花植えたりいろいろやってるが、蟻の穴からでも堤防は壊れると言う。壊れたら恐ろしいで。

### 火薬庫の爆発

この外枚方で大きな出来事と言えば、禁野の火薬庫の爆発や。あれは恐ろしかった。爆発したのは昭和十四年三月一日やった。

当時私は大阪におったけど、もう京阪は不通で帰ることができん。その頃京阪の香里園と寝屋川の間に"豊野"という駅があったが、ここには運動場があって、元は"運動場前"と言うとった。その豊野から電車が引き返してしまおう。

その頃、今の枚方市駅は"枚方東口"で、枚方公園駅は"枚方"やった。そこが枚方の中心で、三矢に郡役所があった。それで豊野で電車が引き返してしまおうから、ザーッと電車の線路伝いに歩いて帰ってきた。午後の四時頃やったかな。

### 兵隊が通してくれない

そしたら、枚方から難民のようなかっこうして、逃げてくるわけや。えらいこっちゃ……。枚方公園まで来たら、陸軍がよおけ来とった。"着け劍"言うて、銃の先に劍を付けて、兵隊がよおけおって、枚方の町に一步も入れさしよらへん。

# 枚方の陸軍倉庫發火 軍隊等救護に活躍す

## 死傷者あり、焼失約六百戸

### 京阪神の家々に響く



聞の

禁野火薬庫爆発記事（「毎日新聞」）

大塚の村も燃えていた

枚方を通られへんから、そや、高槻行ったらええんやとい  
うんで、橋を渡って高槻に歩いて行った。枚方から高槻へ行  
く橋の上から見たら、御殿山の方、そりや火がバアーと上が  
ってね、その火よりも煙の方が大きいんですわ。そしてね、  
砲弾が爆発するんやね。ポカーン、ポカーンとはらわたにし  
みるような音や。あそこでは曳光弾もつくってた。曳光弾で、  
暗いところで弾の行方をつきとめるために撃つんや。それがま  
た爆発して上へ上がってバアッと明るくなる。淀川の橋の上  
でそれ見て、向こう側に渡ったら、そこは大塚やけど、そこ  
の村の百姓家が燃えてるんですわ。そんなとこまで砲弾が爆  
発して飛んでくるんやね。それでももう誰もおらんから牛が田  
んぼの中を走り回ってる。

京都から牧野へ

こりや末期的現象やと思うた。高槻からは新京阪（今の阪  
急京都線の前身。当時は京阪が経営していた）で、京都の四  
条大宮まで行ける。四条大宮から四条まで市電に乗って、四  
条から大阪へ向けて京阪で帰ってきたわけです。京阪は八幡  
で止まってしまつて、八幡から歩いて帰ってきた。

なぜかと言ったら、皆逃げてるから、後で泥棒入ったら困る。  
それとね、やっぱり戦争中やったからね、スパイが来て陸軍  
の火薬庫がどれぐらい被害をこうむってるかということも調  
べられても困る、ということやったらしい。あらゆる主要な  
道路はぜんぶ兵隊が詰めていて、戒厳令みたいなものですよ。

「牧野はもうおまへんわ」

歩くのは平気ですよ。八幡の次に橋本という所がある。あそこは昔遊郭だった。橋本の遊郭は誰もおらん。モヌケのカラダだった。橋本にうどん屋があって、あんまり腹が減ったからうどん屋に入って、「うどん食わしてくれ」言うたら、「どこへ行くんや」「牧野に帰んねん」「もうやめとき。牧野はもうおまへんわ。火薬庫の爆発でつぶれてしもた」……こりゃえらいこっちゃなあと思たけど、帰らなしゃあない。トボトボと一人で歩いて帰ってきた。

牧野の方からは、竹の杖ついたり人の肩にもたれかかった作業服の人を何人か見た。ふらふらになってね。その時にね、トラックに死んだ人を入れる棺を山のように積んで、バートと走るのを見た。ほー、よおけ死んだんやなあと思しながら上島まで帰って、私の友達の家に行ったら、「あ、おまえとこは大丈夫や」という話でね、ホツとした。ほんまにホツとした。

家に入ったらね、最初の爆発で、ガラス障子がハンマーで叩き割ったみたいバラバラですよ。天井はそのままドーンと上へ上がってしまった。壁はほとんど落ちないんやけど、風呂場なんかしっくりの壁がバーンと落ちてね、瓦もずり落ちてましたよ。

さて、帰ったら帰ったで、今度はどこにも出られへん。陸の孤島ですよ。それから二日ほど爆発し続けた。京都の四条の大丸のガラスにもひびが入ったと後で聞いた。

火薬庫が、淀川を通り過ぎて高槻の方まで地下壕が延びてると言われていたが、それは流言蜚語（りゅうごんひご）というてね、嘘ですわ。密閉したところで火がつけばエネルギーの逃げ場がないから、大爆発になる。

しかし、毎日飛行機が飛んできたり、調査のために決死隊が戦車で地下壕に入ったとか、これが爆発したら枚方はなくなるとか、こんな話でもちきりだった。とにかく陸軍のことは極秘で、民間にも何もわからなかった。無理もないことです。この爆発で、甲斐田、中宮、禁野（きんご）では多くの人家が焼けたり、死傷者が出た。この爆発の時、ここに勤めていた人が逃げようとして憲兵にピストルで脅され、中へ連れ戻された。一人は再び帰って来なかったと聞いた。恐ろしいことですな。

田んぼは不発弾だらけ

御殿山の駅の西側（旧国道の西側）は、今は家があるけど昔はぜんぶ田んぼでしたよ。百姓が竹を田んぼの中に突き刺して、不発弾が落ちているという印に、先に赤い布切れをつけて、それが林のようやった。九頭神（くづかみ）の田にも、やはり竹がたくさん立ててあった。



食い物がなくなったと聞いて、親戚が握り飯つくって、京都から八幡まで電車で来て、八幡から歩いて持ってきてくれた。こんな大事故でも、国からは何の補償もなかった。

枚方は危なかった

この土地の変わりゆくありさまを見てきてけど、穂谷川の氾濫と禁野火薬庫の爆発、これははっきり自分の目で見た。戦争に敗けた時はおらんかったから知らんけど、大阪は焼け野原でねえ。牧野は大丈夫やったけど危ないところですよ。陸軍の造兵廠や火薬工場があったからねえ、爆撃の目標ですよ。禁野の火薬庫が爆発してたくさんの人が死んだ。その慰霊碑が市民病院のちょっと東の方に建ってますわ。公団住宅の中とか水道局へ行く道の片隅に、ずいぶんたくさん小さな慰霊碑が建ってますよ。

枚方は、禁野や香里の火薬工場や造兵廠（小松の工場）など軍関係の施設があつて危なかった。また戦争中、軍の造兵廠の将校の宿舎にするからと、我が家にも調査に来て、家を貸せと言ってきた。権力の濫用ですね。戦争中はこれが当然のことやった。枚方から危険な物は締め出さんといかん。

友達はやおけ死んだ

火薬庫の爆発の前後から召集が大量にあり、若い者から皆

兵隊にとられていった。満州事変から支那事変に移っていった。泥沼の中にのめり込んだようにどうにもならなかった。私の友人は、中学校を出て応召して幹部候補生になった者は、将校は消耗品やからね、よおけ死にましたよ。また、兵隊で行った者も、運の悪いのは死んだ。小学校の同窓会いつでも、もうあらへん。中学校の同窓会も、もうクラスで二人しかおらん。

今は住宅だらけやけど

そうそう、御殿山の駅ね、あれはもとはなかった。昭和四年にできて、そのあと陸軍の造兵廠ができて人がたくさん乗るようになった。禁野の火薬庫も広いもんでしたよ。今中宮団地になってまっしゃろ、京阪から大阪向いて左側の火薬庫の土手まではぜんぶ田んぼでしてん。あの辺はいちばん水がつくところですよ。黒田川なんかの樋があつて、水を吐き出すようになってる。今はポンプ場つけて直したからよくなったけど、その時分大雨が降ったら必ず水かぶつてた。

便利になりました

とにかく、私が来た時は牧野村やった。その時分の方がよかったなあ。便利になったけど、余りにも便利になり過ぎて、人が増え過ぎ、人と人の和がなくなりました。あの当時

は電車に乗ったら知った人ばかりや。みんな心安うなって楽しかった。今はもう……。悪い思い出ばかりで、戦争とはこんなものすな。

(了)